



みんなで手を携え、支え合い、ぬくもりのある街にしていきたい。そんな思いを胸に、地域でグループで、生き生きと活動続ける人たちがいます。

先人の功績を知り足跡を学ぶ機会を提供

「新渡戸稲造・万里子(メアリー)夫妻メモリアルデイ」実行委員会

五千円札の肖像でおなじみの新渡戸稲造。「彼の業績を市民の皆さんに広く知ってもらおうと、平成十三年に活動を開始しました」と話すのは、「新渡戸稲造・万里子(メアリー)夫妻メモリアルデイ」の実行委員会(総数四十人)の委員長、佐々木晴美さんです。明治二十七年(一九〇四年)、札幌農学校の教授であった新渡戸稲造は、妻メアリーの協力の下、昼間働く子供たちのために、夜に学ぶ遠友夜学校を創設。彼はまた、後に国際連盟事務次長を務めるなど、国際的に活躍した日本人の草

分け的存在でもあります。

「私も含め、その活躍の身まで知っている市民が少ないため、記念日を設け、一人でも多くの方にその功績を広めようと思いました」と佐々木さん。昨年五月には、新渡戸夫妻に関する講演を中心、創設の集いを開催したところ、大勢の人々が会場に足を運んでくれました。「これをきっかけに、市民グループで勉強する機会を設けたり、小学校の授業で取り上げてもらったりするなど、着実に活動の成果が表れ始めているんですよ」と、手応えを感じています。



昨年、新渡戸稲造・メアリー夫妻の孫である加藤武子さんなどを招いて、創設の集いを開きました

二回目となる今年の集いは、遠友夜学校で実際に学んだ方の話をビデオで上映するほか、先生と小学生による話し合いなどが行われます。「次代を担う子供たちには、愛と献身の精神で人々のために尽くした新渡戸稲造・メアリー夫妻の生き方を学んでもらい、それを通じて、自らの将来の目標を描いてほしい」と願う佐々木さん。今後は、子供や学生が主役となって学

習する機会を増やすなど、さらに活動内容を充実させていく予定です。

■「新渡戸稲造・万里子夫妻メモリアルデイ」の集い

日時 5月17日(土)午後1時30分～3時20分。

会場・定員 北海道大学クラーク会館(北区北8西8)。500人。費用無料。当日直接会場へ。

【詳細】北海道開発技術センター(担当・佐々木、谷口) ☎(271) 3028

広告欄